

平成21年 5月 31日現在

研究種目： 基盤研究（B）
研究期間： 2006～2009
課題番号： 18360295
研究課題名（和文） アジア諸都市の都市組織と都市住宅のあり方に関する比較研究
研究課題名（英文） Comparative Study on Urban Tissues and Town House in Asian Cities
研究代表者
布野 修司（FUNO SHUJI）
滋賀県立大学・環境科学部・教授
研究者番号：50107538

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築計画・都市計画

キーワード：アジア、都市組織、都市住宅、街区、ショッピングハウス、植民都市、都城、グリッド

1. 研究計画の概要

本研究は、アジア諸都市における都市組織と都市住宅のあり方を、臨地調査によって明らかにし、一定の型の形成とその変容について体系的に明らかにすることを大きな目的にしている。

アジアの諸都市についての欧米における研究は極めて薄い。アジアの数多くのユニークな都市の空間構成を明らかにすること自体に大きな意義があり、さらにアジア都市研究の体系化への道筋を示すことが本研究の大きな役割である。我が国におけるアジア都市研究の基礎を固めるとともに、その水準を世界に示すことが第一のねらいである。

一方、本研究はもとより歴史研究にとどまるものではない。植民地化のインパクトとその後の変化がより大きなテーマである。都市の形成、変容、転成の過程を、都市組織、都市住宅のあり方に即して明らかにすることは、個々の都市におけるこれからの都市住居あるいは街区のあり方を考えるための大きな手掛かりである。都市組織と都市住宅の関係を明らかにすることによって、スラバヤ・エコハウス以来追求してきたエコハウス、エコ街区モデルへの展開を考えるのが本研究のユニークな点と考える。

2. 研究の進捗状況

ヒンドゥー都市の系譜については『曼荼羅都市』、そして特にカトマンズ盆地都市をめぐって“Stupa & Swastika”インド・イスラーム都市の系譜については『ムガル都市』をまとめることができた。日本さらに世界におけるアジア都市組織研究のひとつの基盤形成に貢献したと考える。残る中国都市の系譜

（西安・洛陽・開封・北京・・・）／ショッピングハウス都市の系譜（福建・広東・台湾・・・）についても、臨地調査を行い、まとめへ向けて大きな手がかりと資料を得、その一部については論文として発表しつつある。

臨地調査としては、当初予定の順序を変更したが、研究計画どおりに遂行している。特に、インドネシア（ジャワ諸都市）のカンボンについて四半世紀後の変容を明らかにする調査を行うことが出来たのは、大きな成果である。また、タイ・ユーラート高原クメール都市の延長として、ヴィエンチャン、ルアンパバン（ラオス）について臨地調査を行うことができた。福建諸都市、台湾澎湖島についての調査によって、これまでの研究蓄積がある東南アジアのショッピングハウスの系譜と合わせて、体系的把握への手掛かりを得た。ただ、西アジア以西のイスラーム圏については政治情勢から、本格的なアプローチができていない。当初の予定には必ずしもなかったがイエメンの高層住宅都市を調査できたのは想定外の成果である。インド洋交易圏を介して、南アジア、東南アジア、東アジアのつながりを明確に捉えることができた。

A アジアの都市組織および都市住居に関する文献・資料の収集とリストの作成/ B 地図資料のインヴェントリーの作成/C 都市組織図の作成といった基礎作業は順調に継続してきた。ただ、共通のフォーマットでGISを用いて比較可能なかたちにまとめるところまではいたっていない。最終年度で、その作業を行いたい。

最終的なまとめとしては、D アジア各都市の都市組織と都市住宅の類型化/E ショッピングハウスの類型とその分布図の作製を計

画通り行う予定である。

3. 現在までの達成度

- ②おおむね順調に進展している。
(理由) 以上に記す通りである。

4. 今後の研究の推進方策

本研究によって、当初計画していた大きな見取り図は描くことはできる。ただ、残された地域は当然あり、そうした地域についての臨地調査を積み重ねながら、この大きな見取り図を検証していくことが必要である。また、それ以前に、この間の研究成果を欧米へ向けて、都市組織研究の見取り図とともに発表する必要がある。‘Stupa & Swastika’は、欧米の研究者の関心を呼んでおり、欧文著作や国際学会等で発表を意識的に追及したい。

今後の具体的な作業として残されているのは、まず、中国都城の系譜を体系的にまとめることである。中国については、必ずしも調査環境が整わず、十分な展開が図れていない。具体的な都市としては、北京、西安については一定の蓄積があるので、開封をターゲットとしたい。また、朝鮮半島、ヴェトナムも含めてまとめたい。

もうひとつ大きいのは西方のイスラーム圏である。『ムガル都市』によって中央ユーラシアに視座を置いた見通しを提示したが、海洋世界を通じたルートを抑える必要がある。ただ、イスラーム都市研究の蓄積があるので、スーク(バーザール)に焦点を絞って、ショップハウスの世界史といったアプローチを構想しつつあるところである。

5. 代表的な研究成果

〔雑誌論文〕(計12件) 審査付

- ①布野修司, 高橋俊也, 川井操, チェンタニー・チランタナット, カンボンとカンボン住居の変容(1984-2006)に関する考察, 日本建築学会計画系論文集(以下論文集), 第74巻, 第637号, pp. 593-600, 2009年3月
- ②川井操, 布野修司, 山根周, 西安旧城・回族居住地区の住居類型とその変容に関する考察, 論文集, 第74巻, 第636号, 2009年2月
- ③Chantanee Chiranthanut, Shuji Funo: ムクダハン地方(タイ)のカロン族住居の空間構成とその変容に関する考察, 論文集, 第633号, pp.2285-2292, 2008年11月
- ④Shu Yamane, Shuji Funo, Takashi Ikejiri: Space Formation and Transformation of the Urban Tissue of Old Delhi, India, "JAABE Journal of Asian Architecture and Building Engineering, pp. 217-224, Vol. 7, No. 2, November, 2008
- ⑤川井操, 布野修司, 山根周: 西安旧城・回族居住地区の社区構成と街路体系に関する考

察, 論文集, 第628号, pp.1213-1219, 2008年6月

⑥柳沢究, 布野修司, ヴァーラーナシー(ウツタル・プラデーシュ州, インド)におけるモハッラの空間構成, 論文集, 第623号 pp.153-160, 2008年1月

⑦趙聖民, 布野修司: 韓国安東における旧鉄道官舎地区の居住空間の変容に関する考察, 論文集, 第622号 pp.17-23, 2007年12月

⑧趙聖民, 朴重信, 布野修司: 韓国密陽・三浪津邑における駅前商店街の形成と居住空間の変容に関する考察, 論文集, 第620号 pp.9-15, 2007年10月

⑨趙聖民, 布野修司: 韓国慶州における旧鉄道官舎地区の居住空間の変容に関する考察, 論文集, 第619号 pp.17-23, 2007年9月

⑩山田協太, 前田昌弘, 村上和, 中川雄輔, 布野修司: カイゼル・ストリート(コロンボ, スリランカ)の建築類型の形成と変容に関する考察, 論文集, 第613号 pp.7-13, 2007年3月

⑪山田協太, 前田昌弘, 村上和, 中川雄輔, 布野修司, ペタ(コロンボ, スリランカ)の形成とその変容に関する考察, 論文集, 第614号 pp.153-160, 2007年4月

⑫趙聖民, 朴重信, 金泰永, 布野修司, 「韓国密陽・三浪津における旧日本人居住地の形成と旧鉄道官舎の変容に関する考察」, 論文集 第615号 p.21-27, 2007年5月

〔学会発表〕(計2件)

①柳沢究(神戸芸術工科大)・中濱春洋・岡村知明・布野修司, 「ヴァーラーナシー(インド)旧市街における住居の平面構成と類型」, 日本建築学会大会(広島)学術講演梗概集2008年, E-2分冊, p. 185

②高橋俊也(滋賀県立大)・陳春名・川井操・岡崎まり・美和絵里奈・鮫島拓・山田協太・布野修司, 「台湾・澎湖群島の集落および都市の空間構成に関する研究 その3 望安島の集落の基本構成と各集落の空間構成」, 日本建築学会大会(広島)学術講演梗概集2008年, E-2分冊, p. 359 他

〔図書〕(計3件)

①布野修司+山根周, ムガル都市—イスラーム都市の空間変容, 京都大学学術出版会, 2008年

②Shuji Funo & M. M. Pant, Stupa & Swastika, Kyoto University Press+Singapore National University Press, 2007

③布野修司, 曼荼羅都市・・・ヒンドゥー都市の空間理念とその変容, 京都大学学術出版会, 2006年